

関西触媒化学 株式会社

半世紀以上の実績を誇る 無機化学工業薬品の製造販売 迅速対応がモットー

顧客ニーズを汲み取った 解決スピードが武器

無機化学工業薬品の開発から製造販売を行う関西触媒化学。40年以上前よりニカド電池の正極、負極材料の量産供給を開始し、電池材料のメーカーとしての基盤を築いてきた。ニッケル水素電池やリチウムイオン電池等の電池関連をはじめ、表面処理用の薬品原料、触媒、電子部品の原料処理剤等、ニッケル触媒技術を軸にコバルト化合物等の製造等も手掛け、多岐にわたる原料を供給し続けている。

特筆すべきは1964年、国内初の事例となった、ニッケル触媒技術のソ連（当時）への輸出。これを機に設備投資を拡大、常に業界の先頭を走り続け、その業績を伸ばしてきた。中でも、新商品の開発については、顧客のニーズに応えるべく、その解決スピードを武器にしてきたと言える。

原材料は、価格変動も激しい。顧客からのコスト要求との狭間で、社員一人ひとりが意識を持ち、意思疎通を頻繁にすることを徹底してきたことが、大きな強みとなったのだ。



名古屋から約40分。同社の岐阜工場は豊かな自然の緑の山々に囲まれた多治見市笠原町にある

「化学反応」という物理的にも危険な製造過程の中で、迅速に対応をすることへの難しさは想像に難くない。それに加えて、ベシシク化合物でも、トレンドをキャッチし、『高容量な独自製品』等を開発し提供できるのは、関西触媒化学だからこそもあるのだ。

合言葉は 「環境がパートナー」

化学薬品という、製品の『中間体』を製造する同社が、日頃から抱いているのが環境分野での技術貢献だ。

「化学薬品を扱う以上、その技術力が環境に直接関わります。環境浄化材料や、次世代高機能二次電池材料の開発が、今後の大きな仕事のひとつですね」と箕浦社長。研究スタッフは社員の30%を超え、という、化学技術における強固なベ이스作りにも、環境への姿勢が窺える。また、技術力以外に運搬時、粉末状の製品を飛散させない包装にするなどの工夫にも注力。『環境がパートナー』という姿勢を貫いている。

今後は、電池関連のみならず、電子部品関連、表面処理関連を次なる柱として展開する予定だ。その他、製品の輸出でグローバル化をめざす同社。メインの電池関連も、充電式電池の需要の高まりを考えると、これからの事業拡大も期待できる。

結果された社員の知恵、創造的技術、改革意識をモットーに、社訓でもある、『倫理』『創意』『人間尊重』を統合して事業展開を行う箕浦社長。女性ならではの視点で発せられるやさしい口調の中に、支えてくれる多くの人々への感謝がにじみ出ている。

Company Profile

関西触媒化学株式会社

ISO 14001
ISO 9001



住 所 〒590-0837
堺市堺区柏木町1-3-13

T E L 072-241-6200

F A X 072-245-1513

創 立 昭和32年3月18日

資本金 3億280万円

従業員 76名

代表取締役社長 箕浦 康子

■主な事業内容

無機化学工業薬品の開発、製造、販売

■主な取引先

大手家電メーカー、金属メーカー、試薬メーカー 等

<http://www.kansyoku.co.jp>

他社には
負けない

当社のものづくり
セールスポイント

独自の技術と素早い解決力で対応
倫理・創意・人間尊重で、次代への
可能性を担います

代表取締役社長 箕浦 康子 さん



信頼とビジョン、感謝を持って、独自の開発と素早い解決力で、お客様のニーズに対応しています。電機・繊維・石油・セラミックス・顔料関連分野に活性物質・触媒・磁性材など、各種無機薬品の安定供給が可能です。